

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区教育ビジョン検討委員会（第1回）
事務局（担当課）		庶務課
開催日時		平成30年7月26日（木） 午前9時30分～11時30分
開催場所		としま南池袋ミーティングルーム 302会議室
議 題		1 次期豊島区教育ビジョン（豊島区教育振興計画）の策定方針（案）について 2 豊島区の現状について 3 新教育ビジョンに関するディスカッション 4 次期日程の確認について
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	明石要一 壺内明 野間口雄三 守屋仁子 田中英治 松浦和代 高埜秀典 矢嶋篤子 武居裕子 鶴岡清恵 宮澤晴彦 山本聖志 金子智雄 高田秀和 城山佳胤（敬称略）
	そ の 他	学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、教育センター長
	事 務 局	庶務課長、庶務課庶務担当係長（教育政策グループ）、同主事 コンサルタント

審 議 経 過

No. 1

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 委員長・委員紹介
- 4 副委員長選出
- 5 教育部長挨拶
- 6 職員紹介
- 7 議事
- 8 閉会

< 議事 >

- 1 次期豊島区教育ビジョン（豊島区教育振興計画）の策定方針（案）について
- 2 豊島区の現状について

委員長：それでは議事に入ります。

1つめと2つめの議事について、事務局からまとめて説明をお願いします。

事務局：（資料の確認）（資料の説明）

委員長：ただいまの説明について、ご質問ご意見はございませんか。

3 新教育ビジョンに関するディスカッション

委員長：次の議題ですが、本日は初回ということもあり、各委員会から自己紹介も絡めて、豊島区の教育ビジョンについてのご意見をいただければと思います。

まず、矢嶋委員からお願いします。幼稚園が今、困っていることも含めて、なるべく具体的にわかりやすくお願いします。

矢嶋委員：草苑幼稚園園長の矢嶋です。今回、区のほうが幼児教育に昨年度から力を入れてくださっており、心強く思っているところです。幼小の連携ということも、ずっと課題を持っているのですがなかなか進んでいない状況です。保育園、幼稚園から小学校、中学校へ進む一連の流れが課題かと思います。

委員長：認定子ども園はどれくらいあるのですか。

矢嶋委員：私立で1園です。

委員長：千葉市辺りでは、幼稚園の生き残りが大変なようですが、豊島区はどうですか。

矢嶋委員：保育所がたくさんできたので、幼稚園のほうは困っております。待機児童が幼稚園に流れてきていたのですが、待機児童のみなさんが保育園に入れるようになりました。大変苦勞しておりますが、幼稚園に通うお子さんの数が変わらないということは園の問題であると思います。預かり保育をたくさん行っておりましたので、預かり保育が必要なお子さんがきていたのです。

が、預かり保育よりも保育園のほうがよいということで困っております。

委員長：私立幼稚園の場合、教員の研修が大変だと思います。公立の場合は、小中幼稚園と教員研修があります。研修はどのようにされていますか。

矢嶋委員：夏休みの期間、預かり保育をしていますが、数が少ないので交代で出ております。ご案内をいただいておりますが、平日は無理です。養成校の学生のほとんどが保育園に行きます。幼稚園教諭を希望する学生は少なく、職員の確保も課題です。

委員長：では次に武居委員、お願いします。

武居委員：保育園の立場でお話させていただきます。よろしく願いいたします。

資料を見ていますと、人口増など、保育園だけではなく、たくさん感じるものがありました。資料2-2に園児の推移がありますが、これは幼稚園さんだけの推移ですね。そうすると、保育園でお預かりしている3歳以上のお子さんの人数はここには含まれていないということによろしいですか。

事務局：区内の幼稚園に通われている園児さんの数です。

武居委員：幼稚園さんだけのことで申し上げますと、区外の幼稚園にいかれている区内のお子さんがいらっしゃるという現実があると思います。小学校に上がる時には、学域や私立などにかれると思うのですが、幼稚園児数だけではなく、ここに3歳以上児のお子さんの人数が入れたほうがよいと思います。保育園児も含め、区内すべての人数が入る推移があるとよりわかりやすいと思います。

それが1点と、子どもが増えれば必然的に特別支援のお子さんが小中学校でも増えてきます。保育園でも今現在多くなってきています。グレーゾーンのお子さんが非常に多く、保育園では1歳くらいで気づいても成長段階なので判定はできず、3歳くらいにならないと先生方や支援センターでも判断がつかせません。3歳くらいから、他のお子さんとの差が出てきたりするというところで、そこからわかってきたり、また9歳くらいになると判断がつくものがあるかと思います。

先ほど保育園がたくさん増えてという話があったのですが、豊島区のほうでは人数の推移などを見ますと増えています。消滅都市から、今度は子育ていちばんの都市ということで取り沙汰されていますし、非常に待機児が多かったのですが、昨年度は待機児0になりました。以前から認可保育園をつくってくださいとお願いしておりましたが、3年ほど前までは無認可などもあったのですが、ここ3年くらいは認可保育園をつくってください、3歳児以上にも対応できるようになりました。1年間に10園ずつくらいできてきました、昔私が園長になったころは6園のスタートだったのですが、10園になり、20園になり、1年ごとに30、40、50と増え、この4月は公設も含めて54園となっています。それも社会福祉法人だけではなく、企業が参入してきているのが現状です。私が園長になりたてのころに、池袋で「ちびっこ園」だったと思うのですが、お子さんが保育園で亡くなるという事故が大きく取り沙汰されたことがありました。そのときにニュースを見ていましたら全国版で出てきましたので、そういった事故があってはならないという意味で園長会で

もみなさんに伝えています。教育ビジョンにつきましては、1回目のときも参加しておりますが、よくわからない状態で参加しておりました。今回も参加させていただきますので、少しでも自分の考えも述べたいと思っています。小学校に上がるというところでは、幼稚園も保育園も在宅児もみな、同じラインで小学校に上がってもらいたいという思いがあります。受け入れのほうでも、小学校との連携ということで、保育園も幼稚園もそうですが、国のほうも子ども園などを進めていると思いますし、そういったところでは同じお子さまを小学校に上げるということで、しっかりと連携していけるような教育ビジョンであってほしいと思います。小さいときからの連携が必要ではないかと思います。そういったところに取り組んでいただければと思っています。よろしく願いいたします。

高田委員：ただいまご質問がございましたが、保育園に入っているお子さんの数の伸びが手元に数字がございますので口頭で申し上げさせていただきます。平成26年度、0歳から5歳のお子さんの数が10,502人であったものが、平成30年4月1日現在11,491人ということで、5年間で約1,000人も乳幼児数の伸びがございます。保育園に入っているお子さんの数ですが、平成26年4月1日で4,044人です。ところが平成30年4月1日で5,685人ということです。これも1,600人増えております。注目すべきが保育園に入っている率なのですが、先ほど10,502人に対して4,044人ですので、5年前は保育園に入っているお子さんの割合は38.5%でした。それが平成30年度には11,491人に対して5,685人で、49.5%と急激に保育園に入っているお子さんの割合が伸びています。この率でいきますと、来年はおそらく6,000人以上のお子さんが入園する見込みですので、また足りなくなってしまうかもしれないということで、先ほどもいわれたように毎年10園ずつ増えている状況です。子どもと女性にやさしいまちづくりを進めている豊島区ということで、転入してきている方も多いです。

武居委員：人材確保の部分で、これだけ増えていますと豊島区だけではなく他の区でもそうです。そうすると保育士を募集しても、学校に依頼してもきません。ハローワークからもきませんし、保育園でも園長が保育に入っているような状況です。実際にニュースなどでご存知の方もいらっしゃると思いますが、職員が足りなくて廃園に追い込まれた保育園もあります。人材確保には各園で頭を悩ませている状態です。

委員長：私の短大も定員200名で過去3年間就職率100%です。それでも足りない、各園長さんから問い合わせがきます。保育士の研修はどうされているのですか。

武居委員：各園いろいろだと思うのですが、企業さんのところは企業が母体で行われるところもあると思います。うちの園につきましては、たくさん研修を入れたいのですが、予算もそんなにありません。ありがたいことに豊島区のほうで、私立保育園もご案内をいただけます。区で行っている福祉研修のご案内で、なるべくその研修に行くようにしております。また、園内研修で年2回くらい、また、東京都の保育園関係の研修がありますので、そちらのほうで

研修にいかせております。今、保育園ではキャリアアップ研修ということで、補助金がついています。保育士さんのお給料が安いので非常にありがたいです。その研修に課せられている分野別研修が非常に多くなっております。丸2日研修です。土、日でいくような研修もありますので、そこは園として対応して振替休日を使うなど、何とかして研修を受けて保育の質の向上に取り組んでいます。各園、いろいろ悩んでやっていると思います。

委員長：分科会の件で、3番目に教員の働き方改革とあります。教育というと幼稚園と学校だけですので、保育士さんも含めた研修の検討もしていただきたいと思います。

それでは公募委員の鶴岡委員、お願いします。

鶴岡委員：冊子は読んできたのですが、なかなか頭に入ってきません。私も子育てを終えて、子どもスキップや放課後子ども教室、夜間のパトロール、障がい者の職業支援などに携わらせていただいておりますので、思うところはいろいろあります。そういった部分で共有させていただければと思います、気軽に応募してしまいました。勉強させていただきますのでよろしくお願いいたします。

委員長：豊島区の教育ビジョンに対して思いがありましたらお願いします。

鶴岡委員：親御さんには助かるような学童を延長するといったことがあります、それが果たして子どもにとって負担になっていないのかと一緒に過ごしていると思います。お子さんを遅くまで預けて安心して働けるというのは、親御さんにとって大切なことだと思うのですが、それがお子さんには負担になっていないだろうかと感じます。その辺は話し合いをさせていただきたいと思います。また、私は先生でもなくお友だちでもなく、地域の人というかたちでいろいろと相談を受けます。先生やお友だちにも話せないようなことをもっと取り入れていきたいと思います。

委員長：ありがとうございます。豊島区も学童の指導員がいますね。指導員の質も高めていかなければいけません。厚労省は指導員の資格について、5年以上の経験や教員免許を持っているなど規定はあるのですが、忙しくて研修はできていないです。待遇も悪く大変だといわれています。放課後の子どもたちの世界をどう保障していくかという意味で、学童の指導員のキャリアアップというのは大事なことだと思います。その辺も含めて検討していければと思います。

鶴岡委員：豊島区しか知らないのですが、所長さんによって違います。所長さんや職員の方が臨時職員に対して事細かな指導は一つひとつされるので、しっかりしているのではないかと思います。また、臨時職員さんは勉強されている学生さんも多いのですが、子育てを終えた方も多いので、そこも参考になるとよいと思います。勉強してきた方ばかりでなく、そういった人のお話も聞きながら参加できるというのは私には勉強になります。

委員長：それでは宮澤委員、お願いします。

宮澤委員：小学校は区内22校あります。目白小学校校長の宮澤でございます。この教育ビジョンを、今回前倒しで改定するというところで、趣旨はととてもよいと思

ます。教育の転換期にあるということで、みなさまにわかっていたいただきたいことがいくつかあります。1つは教育の基になる学習指導要領が変わります。今、移行期間といいまして、移している真ただ中です。平成32年度に小学校は全面実施となります。これは教育現場にとって大変大きなこととなります。教育ビジョンは豊島区の設置ということで、豊島区の子どものことを考えたときにどのようなビジョンにするかがとても重要です。これを基に、各学校が学校経営方針を出していくわけです。ですから、このビジョン改定というのはとても大きな作業になります。学校現場としては、今教育にはいろいろなものが入ってきています。先ほど明石先生のお話にもありましたが、今回の改定で、もうすでに道徳の教科については教科書を使って道徳を行います。また、外国語活動が実数を大幅に増やします。教育の世界は、いろいろな社会の情勢が入ってきます。私たちにとって見ると、スクラップアンドビルド、つまり捨てるものと増やすものですが、今の学校にはビルド、入ってくるものは多いのですが、捨てるものがなかなか捨てきれません。そうするとやるのがたくさんあるわけです。小学校の教員の場合はいろいろなものを担っていきます。道徳一つとってもそれが変わるとなると、研修時間が必要になります。外国語もそうです。英語を話せる教員が必要です。豊島区はALTがつかますが、教員がやりなさいということになりますので、やるのがたくさんあります。ビジョンを立てていくときに、豊島区の子どもにとっていちばん重要になってくるものは何かという部分についてみなさんのご意見をいただければと思います。まだアンケートができておりませんが、あまり広げすぎることによって負担感が多くなるのは避けたい部分があります。必要なものを必要な部分で、豊島区としてはこれだけあるけれど、ここは徐々にという部分が必要になってくると思います。

先ほど、幼稚園、保育園の話がありましたが、保育園は保育指針、幼稚園は幼稚園要領があります。保育園が増えて、たくさんのお子さんが入ってくるわけですが、保育園によっていろいろな方針があります。小学校はスタートカリキュラムがあり、最初の1か月間は15分くらいずつで慣らしていくというものです。小学校としても、保育園や幼稚園との連携というのは非常に重要だと思います。また、小、中の連携は、比較的豊島区はやっているとところです。中学校とは連携しているのですが、幼稚園や保育園との連携はこのビジョンでは重要になってくると思います。

今回、働き方改革ということが出てきています。このビジョンの検討は非常に急ピッチです。まだこの時点でアンケートが出てきておりませんので、これから分析してということになると思います。一つは教員が子どもと向き合う時間をどれだけ確保できるか、つまり学校にそれ以外の事務などいろいろなものが入ってきているので、新しいことに向き合い研究する時間がないということがいちばん問題となってきます。これはセットで考えて、子どもと向き合う時間をいかに確保するかという点でぜひみなさんにいろいろな施策を打っていく中で考えていただきたいというのが切なる希望で

ございます。以上です。

委員長：今、若い先生が増えていますね。20代の先生が入ってきて、教頭先生や校長先生がいちばん困っているのが若い先生方のキャリアアップだと思います。報連相を知らなくて自分勝手にやっしまい、校長、教頭が大変だということが想像できます。豊島区では若手教員の育成はどうなっているのですか。

宮澤委員：おっしゃるとおり、東京都全体がそうです。若手が非常に増えて、昨年度も目白小学校に3人の新採が入りました。これは団塊世代のこともあり仕方のない話ではあります。今おっしゃられたような報連相がないということとは少し違い、真面目な若手教員が多いです。ただ、その真面目な教員たちが、いろいろなことが一気にきますから、それを上手く処理していくことができません。昔は年齢構成がベテランから中堅までバランスよく、学校の中で教えていく時代でした。ところが若手が増え、それが自然の中では難しくなりました。OJTといひまして、いろいろな場面場面で若手とベテランを組ませて、仕事の中で教えていきます。また、そういった研修を校内研修とは別に毎月1回OJT研修を行っています。そういった時間を捻出するのも非常に大変なのですが、意図的に教えていきます。今までは自然の中で教えられた文化が教員の世界にはあったのですが、意図的に取るしかありません。そういったかたちで進めています。

委員長：豊島区は公立幼稚園が3園です。公立幼稚園の先生と小学校の先生の交流人事はされていないのですか。

宮澤委員：人事的にはないです。

委員長：ぜひそういったものを行っていただきたいです。言葉で接続といっても文化が違います。公立幼稚園も私立幼稚園もあるので、率先的に小学校低学年の先生と幼稚園の先生の人事交流を1年間でもよいので行っていただければと思います。そうすると幼小の接続はうまくいくと思います。考えていただければと思います。同じように小中の接続についてですが、例えば千葉県で小学校の算数の教科書を読んだことがありますかと中学校の算数部会に入っている先生に聞きました。ショックを受けたのは、中学校の数学の先生で3割しか小学校の算数を読んでいませんでした。小学校算数部会の先生は1割しか中学校の数学の教科書を読んでいませんでした。言葉で接続といひていますが、ご自分の専門の教科の接続は考えていません。小学校、中学校で頑張ってくださいているのですが、接続には乏しいです。言葉でなく、実際の接続を見ていくのが必要だと思っています。

では山本委員、お願いします。

山本委員：区内の千登世橋中学校の校長をしております山本と申します。私は、豊島区との関わりは平成12年からですので18年目になります。ただ、ずっと18年間豊島区に勤務していたわけではありません。この間、都の教育委員会や他区の教員委員会などに入出入りしていました。まず、現在勤務している中学校の様子を端的にいえると思います。かつて13校あった中学校が現在8校になっています。人口推計なども出していただいておりますので、この後どうなっていくのかといったこともビジョンの中には盛り込まれる必

要があると思っています。13校が8校になりましたが、区内の中学校は全体的に落ち着いています。私は全日本中学校校長会で今年、会長を拝命しています。同時に全日中の会長というのは中学校体育連盟の会長を兼ねていますので、いろいろなところから情報が入ってきます。全国的には、現在中学校教育をめぐっては生徒数の減少が大きな課題となっています。少子高齢化への対応をどうするかというのが他の都道府県の主要な悩みや課題であったりします。幸いなことに豊島区の場合は、人口推計は増えているということがあります。2010の教育ビジョンをつくったときには、人口が減っていくという危機感がありましたが、2015になったときに、16ページにこの段階での数値が挙げられており、増加傾向とここではいっています。その16ページのグラフと、今日いただいた資料2-2を見ると豊島区の実態があると思います。そうすると、それぞれの段階で最初は減少に対する危機感の現状があり、さらに5年たったこの2020を立てましようといったときに、これからの人口増加に対して学校の統廃合を効率的にやってきたと思うのですが、今度は場合によっては学校を増やさなければならないといった検討もしなければいけないことになるかもしれません。そういった新たな側面を迎えているというように思います。今回の教員ビジョンを立てるに当たり、10年たっていますので、非常に関心があるのは先ほどビルドのお話もありましたが、効果検証というのが重要な役割を帯びていると思います。果たしてそれがよいのかどうか、軌道修正するべきなのかどうか、いろいろな数値が背景となって示しているところですが、そこをきちんとやっていく作業がこれからのこの教育ビジョンの検討の中で非常に重要だと思います。まず、効果検証、評価、そのときときにはやっているのだと思いますが、それが重要な一つの指標になってくるのかと考えています。増加傾向は大変喜ばしいことなのですが、それゆえの悩み、軌道修正がこれからの豊島区としての行政の責任になっているのかと考えています。

また、ビジョンの中で言葉が出てこないのですが、部活動が中学校で大切にしている活動です。ところがなかなか持ち手がいなくなったりということがあります。私は先ほど申し上げたように中体連の会長を兼ねているので、自分の中で自己矛盾を抱えているような状況です。現場の先生たちの状況と、例えば中体連などで大会を運営して全国大会をやっていますというところで、どうしても兼職ですが担っていながら自分の中で解決していないということは、きっと迷っていらっしゃる方もたくさんいるだろうという状況なので、区内で中学校教育を考えていくときに部活動も重要だと思っています。

また、もう一つ困っていることで、スマホの影響があります。スマートフォンの所持率が年々高まっています。ここから起因するところの人間関係の悪化や、いじめにつながる要因がいられています。中学校において、スマホの影響ということはこのビジョンの中で考えていかないと、大事なものが欠落したままになってしまうと思います。AI時代なので、ますます発展し

所持率も高まっていくと思います。使い方、ルール、それから利点もたくさんあると思いますので、そこも踏まえて理解をしていく必要があると思います。以上です。

委員長：スマホの件についてはPTAも関心をお持ちだと思います。それを含めて議論していきたいと思います。

豊島区で義務教育は15歳までです。15歳までに豊島区の子どもたちにはこのようなことを身につけてほしいといったガイドラインはあるのですか。例えば婚姻届けの出し方、離婚届の書き方、印鑑証明の取り方、パスポートは10年有効で自分で申請するなど、そういった15歳までにはここまで押さえていきたいというガイドラインはあるのでしょうか。

山本委員：教育長が強く押し出しますので、あるような気がします。秋田市の能代市は教育連携を進めていて、当たり前のことは当たり前でできるようにと聞いています。大いに学びながら、委員長がおっしゃっているような常識人を育てていくというのは重要な要素だと思います。離婚届についてはいろいろと差し障りがあるのでそこまで踏み込んではいません。

委員長：生活保護を受けるにはこのような手続があるなど、そのようなことを知っておかないと社会の仕組みを使えません。短大でも実印と三文判の違いをわからない学生がいます。印鑑証明とは何ですかと聞かれます。親たちが知っていた知恵が伝わってきていません。そこは教育ビジョンとして、豊島区では15歳までに必要な知恵を身につけて社会に出るといったことがあればよいと思います。

壺内委員：壺内と申します。よろしくお願ひいたします。中学校教育の現場で、23区で財政的に豊かな区やそうでない区など、私も5つくらいの区を経験してきました。その中で豊島区は教育でいうと先進区であり、成熟した区です。大体満たされていて、保育園、幼稚園から高等学校までというように、教育委員会と学校と各機関が三者一体となり、保護者も含めて地域とうまく回っている区だと思います。教育委員会や行政のみなさんには随分と研究委員会でお世話になりました。他の区にも行っているのですが、比較して見ると本当に実現できる区、夢を追いかける区で、そういった面では現実的な見方をしながら教育ビジョンを作成していけるとと思います。見通しが明るいと同時に、学校教育は200くらいの課題があります。科目だけではありません。小学校の先生は新しい学習指導要領は難しいですから大変だと思います。20年くらいでやっとならできるくらいだと思います。プログラミング教育が入ってきて、授業実数が今は5日制ですが6日制のときは2,015時間という授業実数でした。それが1,980になりました。ところがまた学校は6日制のときの授業実数なんです。先生方も余裕がないでしょうし、子どもと向き合う時間とは一体どこにあるのだろうかと思います。休憩時間だけではないでしょうか。そういったことを考えていく中でも、やはり豊島区というのは恵まれているので、AI教育からIoT社会へ、超スマート社会へといわれていますが、国のコンピューターの設置も豊島区はステージ3になっていると思います。ところが23区はまだステージ1です。子どもたちの思考力、判

断力、表現力の大切さ、子どもたちが社会で自立できるようなことを見通しながらこの教育ビジョンのお手伝いをしたいと考えております。よろしくをお願いします。

委員長：23区の中で先端を走っているということですが、学校の知的学力はよいけれど体力は少し弱いというデータが豊島区はありました。例えば歯科医の先生が健康診断をします。半年後、むし歯を治療したかという家庭力を見ると、小学校でむし歯を治した方は5割、中学校は3割でした。家庭の力はどうなっているのでしょうか。学校教育の知的レベルは高いけれど、それを支える家庭の健康、食育を含めた教育も大事ではないかと思えます。

野間口委員：小学校22校のPTA連合会の会長をしております野間口と申します。今回、この席に出られたことを非常にありがたく思っています。今、みなさんのお話を聞いている中でも非常に興味深い話ばかりでした。明石先生がおっしゃったように、家庭の力ということで簡単に申し上げますと、非常に格差があります。シングル家庭も非常に多いですし、片やお金持ちの子どももいます。子どもたち自体はそれを気にしてはいませんが、親同士の付き合いなどではコミュニケーションの中でいろいろなことがあります。子どもたちを見てみると、基本的には学校に対して満足しているのかなと思えます。保護者もその姿を見て、学校に対する不満というものはあまりないのかなと思うのですが、全体を通して見ていると先生方の働き方がやはり異常ではないかと率直に思えます。もっと子どもたちのために尽くしてほしいと思います。それではない仕事が多すぎる気がします。もっと子どもたちのことを見て、もっと子どもたちと一緒に成長してもらいたいです。若い先生が多く、なかなか成長しません。それは子どもたちのことを考える時間がないからなのではないかと思っています。今いったことと矛盾するのですが、若い先生でやる気がある先生方は、ワーク・ライフ・バランスということをよく聞くのですが、ワーク&ワークでやっていただきたいです。先生方は子どもたちの面倒をみる以外に膨大な事務作業をしなければいけない状態だと思います。事務作業的なものをもっと減らして、子どもたちのために尽くして、そして自分自身も成長していただきたいと思っています。そういったところが教育ビジョンに反映できればよいと思います。子どもは親の鏡と申しまして、親を見れば子どもがわかるといますが、子どもも非常にさまざまです。先生方が本当にそれぞれの子どもを見るには時間が必要だと思います。また、特別支援が必要な子どもが増えている傾向にあるので、そういったところも通常の学級にいつている子どもたちと同様に学んで成長していけるような仕組みが大事だと思います。教育ビジョン自体が、言葉だけの冊子にならずに、実際にこれをもって豊島区がもっと子育ての先駆的な立場でやっていければと思っています。よろしくをお願いします。

委員長：PTAでは役員のみ手がなくて困っていると聞きます。地域では自治会長さんなり手がなく、民生委員のみ手がなく聞いています。地域を支える世話役の方がなかなか手を挙げなくなっているのですが、豊島区もPTA役員はすんなりと決まらないのでしょうか。

野間口委員：なり手はないという現実があります。私は池袋第一小学校ですが、そこではそういったことはありません。楽しいものに対してはみんなやります。楽しくやりがいがあることを提示するという方向でやってきました。ただ単に、役員をやりませんかといわれても、私も引き受けないと思います。このようなよい面があります、このようにしたら楽しいですといった引きつけるものがあれば、みなさんこっちを向いてくれます。やり方が下手なのではないかと思います。

委員長：島根県の松江市に小学校が24校あります。24校のPTAの方々が校長会に運動会を土曜、日曜にやらないでほしいといわれたそうです。できれば平日にやってほしいということで、よくお聞きしたら、春と秋には少年サッカー、少年野球の大会があるので重なる困るということでした。

野間口委員：個人的に保育園の運動会と重なるからずらしてほしいといってくる方はいます。

委員長：地域の学校観も多様化しています。従来は、尊いところに登っていくから登校、下校といました。ところが今はもう通学路は平坦ですから、あまり学校は尊敬されていません。文化が変わりつつある中で、PTAも含め地域で学校を支えていくという風土をつくっていかなければ難しいかなと思います。

守屋委員：明豊中学校のPTA会長と連合会会長をしております。3人子どもがいるので、9年間中学校に在籍していました。前の教育ビジョンのときにも実は連合会長として関わらせていただきました。3人の子どもたちを幼稚園、小学校、中学校と育ててきたので、いろいろな教育が変わっていく姿や、子どもたちの姿を見てきました。

先ほど連携といわれましたが、区立の幼稚園は3園しかないの、近くの小学校とたくさんの交流があり、幼稚園の子どもたちは上の子どもたちと交流があったり、学校に行くチャンスがあるので、憧れを持って小学校入学を待つという段階を感じる姿を見てきました。それが区立の幼稚園だけではなく、保育園の子どもたちが空いている時間に小学校、中学校にという時間があったとしても、もしかしたら気持ちというのは身近で芽生えていくのかなと思います。

また、私は保護者という立場で学校に足を運び授業を見ているのですが、本当に小学校も中学校も授業が充実していて、落ち着いて子どもたちが学習に取り組んでいます。自分が中学校に関わるようになった9年前は、参観といって公開をしても保護者がほとんどきていませんでした。そのようなときにどうなるかというと、少し子どもが落ち着かなくなります。先生は頑張っている保護者側の無関心というか、学校に任せられるという安心感もあるのかもしれませんが、子どもたちの落ち着かない姿を見ているときに何が必要かと思います。いろいろな講座をやっているところに保護者がいくことは子どもと一緒に学ぶ時間であり、それくらいよい講座がたくさんあります。それを子どもたちと共有して、また家庭でその話題や先生方の話題なども生まれるので、保護者が学校に足を運ぶことはとても大事な

ことだと思えます。先ほど、役員のなり手の話がありましたが、やはり野間口会長がおっしゃったように私の学校もなり手にはあまり困りません。なり手はいます。学校に関心を持って足を運んでくれる保護者が多いと、先生の見方もわかりますし、子どもの言葉だけでうちの子どもを信じていてはダメだと気づいたりします。来年はやりますという保護者が増えたりします。それは保護者にとっては学びと子どもの取り巻く環境を知ることであり、学校はたくさんお知らせを出していただきますが、それだけでは保護者はなかなか中学校まで足を運ぶということにはならないので、そういった意味ではPTAの役割は大きいと思えます。

この前のビジョンを作成するときの委員のときに、国際交流にほとんど触れていない感じでした。給食に多国籍の料理を入れているという程度でした。これからの多様性を持った時代を生き抜いていくときに、それだけでよいのだろうかと思っていたのですが、今日推移の表を見て学校が現在抱えているお子さんや保護者の言語が違い、肌の色や宗教の違いがあるというのが豊島区は当たり前になってきています。そういった意味ではいろいろな授業が展開されていくと思いました。スポーツやオリンピックということだけではなく、文化や言葉など、今あるものをもう少し視点を変えて取り組む教育であってほしいと思えます。それがここに書いてあるような「他者を知る」「自国を知る」ということが、自分を知ることになり、相手を理解することにつながると思えます。自分の個人的な活動で国際理解を行っているので、小学校や中学校や子どもが幼稚園にいるときには幼稚園もときどきボランティアで授業に入っていました。英語だけではない言葉や活動に子どもたちが触れると、相手に対して興味や発想が子どもたちや先生に生まれると実感しています。教育と大きく打っているので、英語を教えなければと焦る先生が多いと思うのですが、教えなければいけないという違う立場でできる糸口があると思えます。このビジョンの中でいろいろ議論されながら、先生たちが安定感を持ってやっていければよいと感じます。

委員長：外国籍の生徒が増えていますね。PTA役員の中で外国籍の方はいらっしゃいますか。

野間口委員：言葉をお話の方であればそういった可能性は出てきます。子どもは言葉がわかっても親がわからない方がいらっしゃるの、そういった方に関してはきてくださるだけで十分だと思います。それくらい外国籍の方は多いです。

守屋委員：日本語だけのお便りでは対応できない学校も増えています。

委員長：幼稚園と保育園はどうですか。外国籍の役員はいらっしゃいませんか。これからそういった方にも役員になってもらい、いろいろなご意見を出していただく多文化に対応できるかもしれません。

野間口委員：外国の方は、PTAを知らないですね。そういった仕組みがあることから説明しないとわかりません。なぜ学校のために働かなければならないのかという質問が最初にきます。

委員長：中学校の場合、受験がありますよね。今度は大学の統一テストが高校2年生で

きます。保護者の中でそれに対応した教育をしてほしいなど、要望はありませんか。

守屋委員：私自身はそういった考えはまったくありません。小さいうちから塾や習い事など、子どもたちはとても忙しく、その上に学校の宿題などもありどうやって生活しているのだろうと思います。家族の時間をどのように確保しているのかと心配になります。逆に、私は小学校、中学校の学校の教育で十分だと思っている側なので、当たり前のように塾に行っている子どもたちが理解できません。時代の流れかもしれませんが、伸び伸びと子どもたちと学びをといいながら、受験が学校や子どもたちを取り巻くものを変えてしまっているのではないかと思います。私は学校の授業で足りると思うのですが、学校の先生はどうお考えなのでしょうか。

委員長：豊島区の小学校から受験する子どもは3割を超えます。豊島区はまだ公立中学校の信頼があり、他の区よりも私立にいく子どもが少ないといったデータが出るとよいですね。

山本委員：そこが実は現在の課題でもあります。目白小学校と千登世橋中学校は同じ学区で小中連携の関係であるので、最近保護者会にお邪魔させていただきました。私立の中高一貫校を目指していらっしゃる家庭は小学校3年生くらいが決断の時期なのだと聞きますが、そこまではと思い小学校5年生の保護者会に出させていただきました。冒頭に申し上げさせていただいたのが、焦らないでくださいという言葉です。他の家庭が塾にいかせたりし始めると、うちの子どももというようになるのですが、私立を受験することでストレスは必ずかかります。そのストレスを与えて伸びる子どももちろんいるのですが、伸び伸び育てたいという家庭もあると思います。ですから慌てず、子どもの特性がどうなのか、せつかく私立に入っても戻ってくるケースもあります。そうすると挫折を味わってきますので、できたら挫折を味わせたくないということの小中連携もやっているところです。

委員長：中学校の校長先生が小学校5年生の保護者会に出るということはうれしいことです。ぜひ発信しましょう。

守屋委員：どれだけ充実したか、どのような取り組みをしているかを区民は知らないと思います。ここにこんなにあっても、それを感じられることが少ないのではないかと思います。

田中委員：私は町会連合会の副会長をしております。先回も教育ビジョン検討会の委員をさせていただきました。今回も会長から委員をやれということで参加させていただきました。私もそろそろ人生が終わりのほうにきているので、教育に遠い人間だという気はします。私が今喜びとしているのは、庭で植木や野菜をつくることです。きゅうりやトマト、レタスを収穫しています。高温の日が続いており野菜が値上がりしているのですが、うちでは心配がいらぬといったことを喜びとしているこの人間に、なぜ教育かという感じがしております。ただ、最近の日本を見ていると、小学生が登下校中にさらわれたり、殺されてしまう、あるいは新幹線の中で他人の命を平気で奪ってしまうといったことがあり、これはどのようなことなのかと思います。多分、

家庭教育も大きく影響をしているのだと思います。小学校、中学校時代の教育が影響しているのかなと思っています。私の子どもころには身代金を要求するという事件がありましたが、今はそういったことはありません。どうしてかと思います。犯罪を犯している人を見ると、ゆとり教育のころの子どもではないかという気がしております。私が育ったのは団塊の世代で、池田勇人さんが高度成長のことを謳い寛容と忍耐というようなスローガンで出てきました。今は寛容と忍耐といった教育の仕方はしていないのではないかと思います。我慢すること、人を許すといったことが少し足りないかなと思います。私にも孫がおりますが、あまりものを与えないようにしています。親は生活が豊かなせいもあるかと思いますが子どもが要求するとすぐに買って与えてしまいます。その子どもたちが大きくなり、自分で満たされないときに万引きといった犯罪につながるのではないかと思います。その辺のことを、小さいときから教育していくことが大事なような気がします。そのような私が教育ビジョンの委員などできるのだろうかという気がしております。以上です。

委員長：地域の力をどう伸ばしていくかということで、早朝と放課後を83運動といっていますね。朝8時ころに庭先で水を撒きましょう、犬の散歩をしましょう、午後3時ころにもう一度犬の散歩をしましょうといったように、地域の方が存在すると問題は生じないということで、83運動をやっているところが多いです。豊島区辺りで地域の方々が、子どもたちのセーフティガードしている方は多いのでしょうか。

田中委員：町会はたくさんあります。学校とエリアの近い町会はやっていると思います。遠いところはそういったことはなかなかできていないと思います。学校とのつながりも希薄になっていると思います。

委員長：「子ども110番」というカードを貼っている家庭は多いのでしょうか。

守屋委員：貼ってあっても鍵がかかかっていて入りたくても入れません。商店といったところなら飛び込むことはできますが、普通の家玄関に貼ったところで鍵がかかかっていれば入れません。

山本委員：子どもたちの顔を知っている地域の方は多いと思います。他の区と比べても地元とのつながりは強いです。

委員長：小さな区で人口もそれほど多くないですからね。

松浦委員：豊島区民生委員児童委員を代表しまして参加させていただいております松浦です。その中でも主任児童委員部会長をしており、子どものことを主に担っています。主任は偉いということではなく、子どものことを主に担うということでの主任児童委員です。地域の子どもの見守っておりますが、昨今保育園にいくお子さんたちが多くなりまして、土地を分譲して新しい方を受け入れるということで新しいご家族が増えています。この豊島区内に家を建てるとすごい金額になりますので、やはり共働きをしないと得ることはできません。そういった中で、やはり長時間お子さんを預けたり、地域のファミリーサポートさんを使って送り迎えをしてもらったりという体系になっています。昨今、貧困問題があり低所得の人でお父さん、お母さんがパー

トで生計を成している方もいます。そういった方には手を差し伸べて、何かできないかなということでお声かけをさせていただいておりますが、心を開くまで私たちが通いコミュニケーションをとっていきながらやっていくのはとても大変なことです。私も11年目を迎えて、当初の事例とは全然違うかたちの支援をしていかなければいけない家庭が多くなっています。その中で、精神的に患っているご両親のサポートが大変です。子どもに何も罪はないけれど教育虐待といいまして、よい学校、よい職場、よい結婚を目指して塾にいき習いなさいというところで、親の気持ちを押しつけて子どもの気持ちが消えているような寂しい時代だと私は感じています。その中で、子どもの負担になってくると心に余裕がなくなり、人に意地悪なことをしたり、大人に暴言を吐いたりということがあります。そういったことがあるので、地域での見守りや、あそび場でもよくない言葉を使っていたり、いじめをしているときには声かけをするということで公園に出向いたりもしています。先ほど83運動とおっしゃいましたが、今学校のほうは早く門を開けていただいておりますので7時半から登校児を見守り、少しずつですが人数が増え始めて私の地区では早朝の声かけをしております。スマイルマークというものがあり、私たちは安心安全な大人ですということをつけています。例えば、忘れ物を取りに帰ろうとした子どもに「どうしたの」と声をかけて、忘れ物は取りに帰ってはいけない約束ということで「それは先生にいってごらん」というと安心して登校できたりします。子どもだけでは判断できないといったことで、自分で判断できるようなお子さんに育てていきたいということもあり、声をかけていたりします。公立中学校の人数もだんだんと減っているということでした。先日、私立中学校にいったお母さんたちが職場体験ということを目にしたらしいのですが私立中学校にはそういったことはありません。でも公立には職場体験があり、自分が働くにはどのようなカリキュラムでやっていくのかということ学ぶことができると聞いた心揺らいだという話もありました。やはり公立の学校での特色をもう少し宣伝できれば、もっと豊島区の子どもが増えて地域での見守りが強くなるのではないかと思います。

保育園との連携ですが、小学校に上がっていろいろな支援をしなければいけないお子さんが出てきます。その段階で、遡って幼稚園や保育園にも訪問します。学校に個人カードがあるのですが、そのカードに以前はお父さんやお母さんが就職等が書いてあったのですが、今はそれが書いてありません。私たちがそこまで知っているかというと、やはり耳を大きくしていないとわかりません。近々で信頼できる方に聞いたりしておりますが、そういった情報を得るのは非常に困難です。それはどこの地区も同じということです。各区でも同じ問題を抱えています。情報提供といわれても、なかなか関わりを持たないと得ることはできません。買い物先でお父さん、お母さん、その子どもに会ったときに、私たちがどのようなことをしているかを子どもが話してくれます。そうすると親御さんがいつもお世話になっていますとあいさつをしてくださいます。幼稚園や保育園、小学校、中学校と一緒に連携

を取りながら、子どもの発達状況も踏まえ、教育委員会との連携も踏まえて子どもたちの健やかな成長を願っている日々でございます。以上です。

委員長：幼児虐待の情報などは挙がってくるのですか。

松浦委員：挙がってきます。また、特定妊婦といいまして、若くして妊娠してしまう人もいます。今は性教育は中学校3年生までに行っていただいています。安易な考えが多かったり、上に兄弟がいるおませさんがいます。そういった仲間同士での話で「私はここまで」といった話もLINEなどでしているようです。18歳までに教えることがたくさんあります。私も息子が社会人になった段階で、社会保険や健康保険など、少しは理解させて送り出したいと思いました。

高埜委員：私は保護司会のほうから参加させていただきました。最初にお話したいのはやはり充足率です。まちの中に保護司の数が減っているということです。特に昨日も法務省にいったのですが、東京都の充足率が減っております。豊島区は都内で充足率が4位ですが、実際は80%とちょっとです。そのような段階です。これから10年先に定年になり、私たちがいなくなったときに保護司の数は50%台になります。それを心配しています。先ほどもPTAのお話の中に、PTAはなり手がいないのですかとおっしゃっていました。民生もそうだと思うのですが、本当に減ってきています。保護司とは一体何かというところから入らせていただきますと、環境調整というものがあります。環境調整というのは、少年が少年院などに入っていて出てくるときに引き受ける場所を確保しなければ出られないので、ご家庭を訪問し、その家庭の環境を調整させていただく大切な仕事です。学校教育、社会教育、家庭教育は昔からいわれていることですが、この部分で家庭教育が私たちにしてみればいちばんネックになっているのが現状です。環境調整にいったときにわかるのは、そのご家庭の雰囲気です。見えてしまいます。

地域としては、私は小学校の運営委員をしております。校長先生とよくお話をします。若手の教員が多くなったので、その地域を知っている先生がいなくなるということでも心配しています。地域のお祭りから始まり、一つひとつの行事を小学校の先生が知らないまま移動していきます。今は校長先生、教頭先生がいらっしゃるのでわかりますが、その方々が異動したときにはまるでわからなくなります。そのようなお話をよく聞きます。それができればいちばんよいことだと思います。

また、今日は高田部長がご出席でございますが、7月1日から子ども課が子ども若者課に変わりました。子ども若者課ということで、若者の専門のポジションを一つつくっていただいたのですが、先ほどお話がありましたように豊島区の各課の横つながりがこの若者課の中から生まれていくとよいです。例えば私たちは薬物などのケースも預かります。そういったケースを預かったときに、この若者課を通して保健所につながっていきます。生活保護は福祉課ですが、そこにもつながっていきます。この若者課が中心になって広がっていきます。ですから、地域で子ども、大人が相談する部分があればぜひともこの若者課を活用されるとよいと思います。私たちも保護司会と

してはサポートセンターを持っております。サポートセンターに相談にいらっしゃる青少年の方々を若者課につなげていきます。そして解決をしていきます。民生でもそのような問題が出てくれば、ここに相談して解決させていくこともできます。豊島区にはいろいろなセクションがありますから、そこを活用していくといったかたちになっていけばよいのではないかと考えています。以上です。

委員長：この保護司というのは、日本が世界に誇れるシステムです。今おっしゃたように保護司が高齢化して若手が育ってきていないということで、民生委員もそうなのですが、地域を守っていただけの方が非常に少なくなってきていると感じます。教育でいちばん大切なのは、車の免許証をとれる学力をつけることです。車の免許をとらないと仕事にならないので、最低の教育は免許の試験が受ける学力をつけることです。豊島区もここだけは15歳までにやっただき、後はよいところを伸ばしてもらおうなど、そういったところをこの教育ビジョンの中でつくっていただければと思います。基本的な部分とプラスαをどう伸ばしていくかといった部分を入れていけたらと思っています。

高埜委員：一つつけ加えさせてください。少年が出てきたときに、7か月、10か月と見ていきます。その間に実は豊島区は1名なのですが、アルバイトをさせています。これをやっているのは大田区、世田谷区、豊島区だけです。そのようにお願いしてやっております。

委員長：時間が迫ってまいりました。今日は最初なので、みなさんからご意見をいただきました。これをもちまして、議事を終わりたいと思います。

4 次回日程の確認について

委員長：議事4について、事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料3に基づいて説明)

委員長：それでは以上をもちまして、第1回の会議を終了いたします。ありがとうございました。

<閉会>

<p>提出された資料等</p>	<p>資料 1 次期豊島区教育ビジョン（豊島区教育振興計画）の策定方針（案について）</p> <p>資料 2 - 1 豊島区の現状について（人口）</p> <p>資料 2 - 2 豊島区の現状について（園児児童生徒数）</p> <p>資料 2 - 3 豊島区の現状について（特別支援学級在籍者数）</p> <p>資料 2 - 4 豊島区の現状について（課税状況）</p> <p>資料 3 今後の予定について</p> <p>参考資料 1 豊島区附属機関設置に関する条例</p> <p>参考資料 2 豊島区教育ビジョン検討委員会運営要綱</p> <p>参考資料 3 豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱</p> <p>参考資料 4（冊子） 豊島区教育ビジョン 2015 豊島区教育振興基本計画</p> <p>参考資料 5（冊子） 豊島区教育大綱</p> <p>参考資料 6（冊子） 豊島区の教育 2018</p> <p>参考資料 7 文科省「第 3 期教育振興基本計画」（概要版）</p>
-----------------	---